

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 26 年 1 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 25 年 10 月～12 月期の実績および平成 26 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	18 社	60.0%
水産業部会	30 社	17 社	56.7%
機械工業部会	30 社	17 社	53.3%
建設業部会	30 社	16 社	50.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	18 社	60.0%
合 計	150 社	86 件	57.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況が大幅プラス回復・来期はやや悪化見込み－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成25年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で15.5**と前回調査時の△27.6より**43.1ポイントの大幅な改善**をしました。改善した原因としては、全業種のDI値を見てみますと、水産業の好調な漁獲高による業況改善と建設業の工事増加などによる業況改善、機械工業の整備業などの業況改善により全体的なトータルでプラス改善になりました。しかしながら商業食品業部会は-16.7ポイントと低調のままであり、次期見通しの数字を見ても悪くなっていくという予想になっています。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前年DI値△47.1→**今期△16.7**]、水産業 [前年DI値△6.7→**今期23.5**]、機械工業 [前年DI値△35.7→**今期37.5**]、建設業 [前年DI値△28.6→**今期33.3**]、観光・サービス・諸業 [前年DI値△20.0→**今期5.6**]となりました。

今回の調査では、水産業が大幅改善しており、鮭が昨年に引き続き好調な漁獲高だったことやホタテの魚価が高く推移し配当が良かったこと、10月に入ってから品薄で魚価の高くなったイカが豊漁続きで漁業全般が良くなったと考えられます。懸念材料としては、4月以降ロシアとのカニの協定が一段と厳しくなるとの見方が出ており、カニ加工業者は非常に厳しくなっていく状況になるものと思われます。また建設業については、北見信金紋別支店の移転工事(1年間)や広域紋別病院の立替工事(2年間)、紋別港ガリヤ地区に建設予定の住友林業によるバイオマス発電所の建設(3年間)など人手が足りない中で仕事をこなしていく状況で、この状態はまだ続くものと聞いております。この好調な2業界に絡む機械工業部会も加工場の設備修理工事やトラック、重機などのメンテナンス事業など仕事が増加しており、業況改善につながっているものと思われます。飲食業などを含む観光サービス業諸業などについては、数字的には小さいですが全体的にプラス回復している状況で外国人観光客の増加や外食が増加してきているものと思われます。しかしながら商業食品業については引き続き業況悪化が続いていく状況となっています。

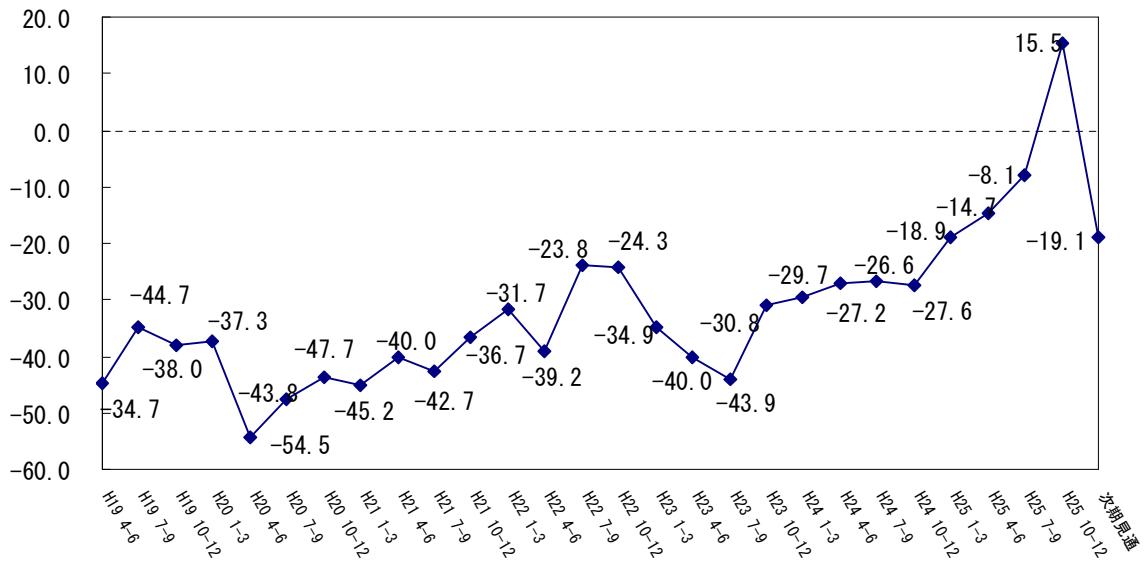
次期(平成26年1月～3月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIが34.9ポイント大きく悪化(次期見通し△18.1)**するとの予測となっており、大幅なプラス回復を次期まで見通すことが出来ないという数字になっています。なかでも商業食品業および観光サービス諸業の業種において業況指数が△30ポイントを超え悪化するとの見方が強まっており、年度の終わる3月までは内容の厳しい状況が続くものと思われます。建設業も工事閑散期に突入する冬期間の影響で△13.3ポイントの悪化見通しとなっております。

昨年金融円滑化法が終了しましたが大きな混乱もない状況で、倒産や廃業は少なく推移してきました。平成26年4月からは消費税が5%から8%に引き上げられることに伴い、駆け込み需要による景気回復も期待しております。反面、消費税引き上げに伴う景気の悪化や円安原油高騰による仕入れ原材料高騰や経費の増加が事業経営を圧迫しているという状況相談もたくさん寄せられています。今後も当所としましては、職員による会員事業所訪問を継続的に行い、今後の景気動向や経営状況などいろいろな意見を聞きながらきめ細かな対応を行っていきたいと思っております。

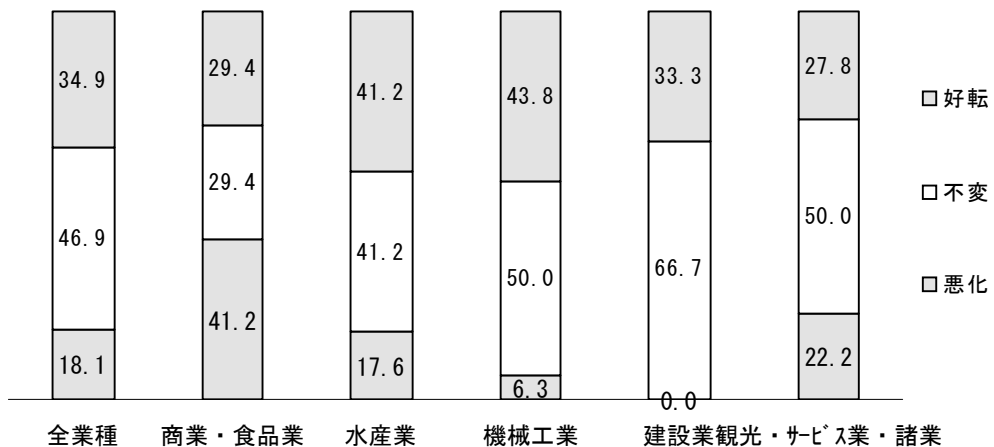
業況推移 (全業種平均D・I)

(好転－悪化)

前年同期比



今期の業況 (前年同期比)



全業種の経営上の問題点としては、「材料等の仕入単価の上昇」「人件費以外の経費の増加」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられており、円安による輸入材料の高騰、燃料代等の高騰に対する不安を訴える声が多くなっています。

■部会別の動向

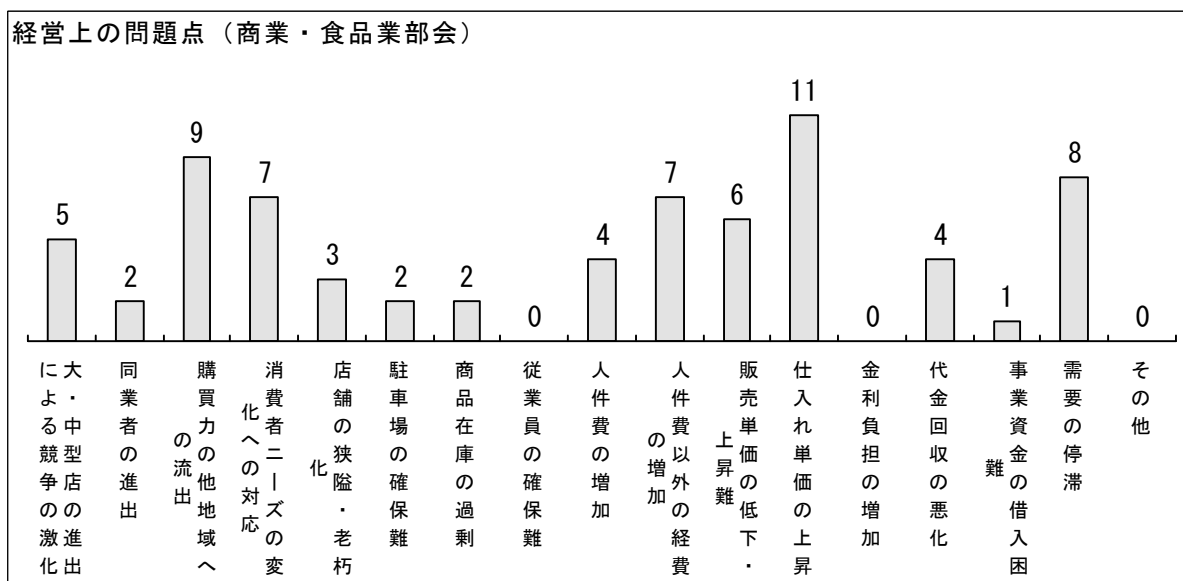
【商業・食品業部会】 [業況判断DI値(前年同期比) $\Delta 16.7$ (前年DI値 $\Delta 47.1$ 、来期見通し $\Delta 38.9$)]

業況DI値(前年同期比)は、昨年よりはマイナス圏ながら少し回復傾向にありますが依然として厳しい状況で推移しています。年末商戦を迎え回復数値を期待していましたが、業況は悪化したという結果になりました。次期見通しとも、さらに悪化していくとの予想となっております。経営上の問題点としては「仕入単価の上昇」「購買力の他地域への流出」「消費者ニーズの変化への対応」「需要の停滞」「人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・ガソリン、灯油高は売り上げに影響していると思う。商品の購入がネットショップに流れている。(小売)

- ・家族だけで商売をやっているが、高齢化もあり、また経営難もあってパート・アルバイト従業員を雇うことができず、売り上げ減少の割に多忙という悪循環がある。(小売)

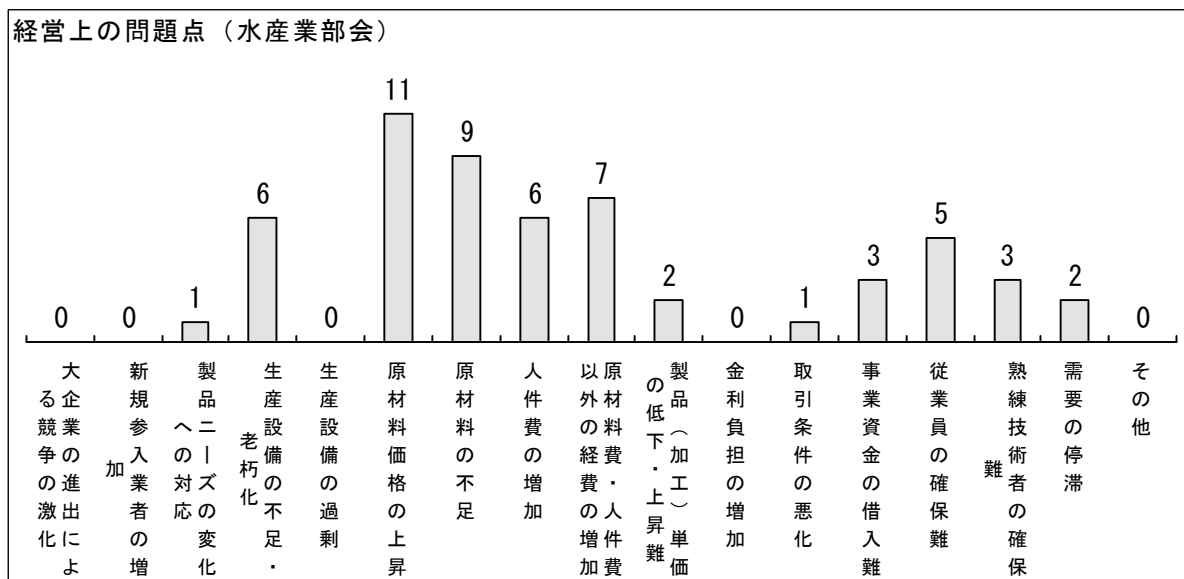


【水産業部会】 [業況判断DI値(前年同期比) 23.5 (前年DI値△6.7、来期見通し0.0)]

業況判断DI値(前年同期比)は30.2ポイント増の大幅改善をしています。要因としては鮭の水揚げが高かったことやホタテ水揚げも順調で単価も高く推移したことから配当も良かったと聞いております。10月に入ってから品薄で単価の高いイカの水揚げが豊漁続きで、全体的に漁業は活気づいており業況改善の牽引役になっていました。しかしながらカニ輸入があまりふるわず、全般的な魚価の上昇に伴い水産加工業者には、仕入れ値の上昇による収益の悪化や原料不足の状態になったりと大きな打撃を受ける面もありました。経営上の問題点としては「原材料単価の上昇」「原材料の不足」「原材料費人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっております。来期の見通しは、流氷到来する閑散期のためきびしくなるという見方が強いです。

《業界の問題点等》

- ・消費税10%になった時が不安です。(漁業)
- ・原料の水揚げは、12月に回復の兆しが見えたものの、これまでの原料不足から輸出を含む他社との競合となり、高値で推移した。また、製造コストも電気料金の値上げ、石油関連資材やガソリン、重油の値上げを受け上昇した。これらを製品売価に転嫁することが難しく、厳しい状況下にある。(水産加工)



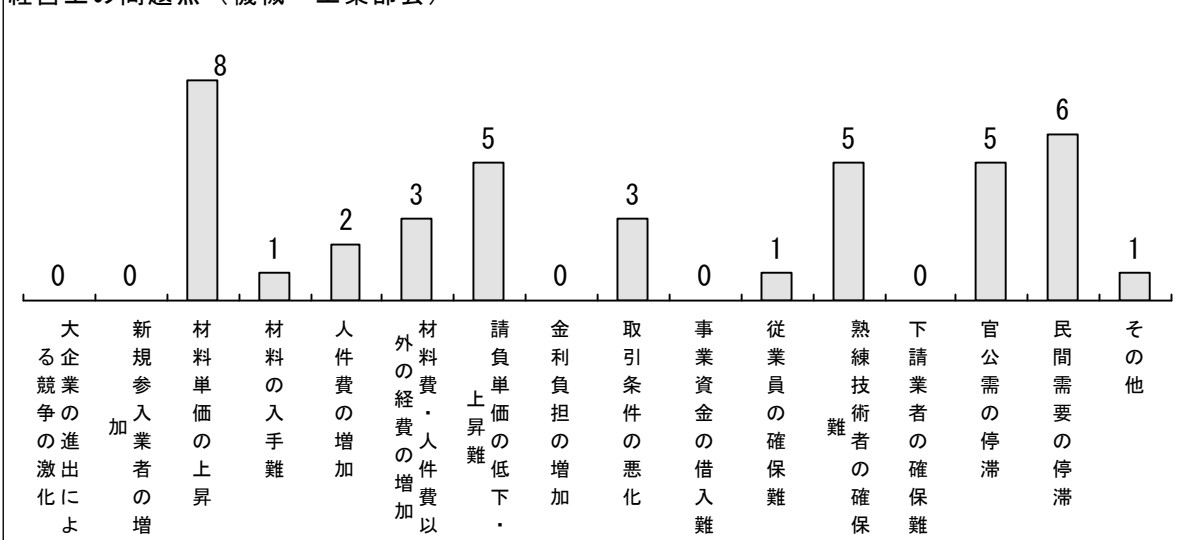
【機械工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）**37.5**（前年DI値△35.7、来期見通し0.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前年比73.2ポイント増の大幅改善となりました。要因としては関連業種の水産業や建設業による工場機械や船舶の修理や重機トラックなど自動車整備の仕事が順調に回ってきており業況指数の改善につながっていると思われます。来期業況見通しは0.0と回復と悪化の予想が同数となっており微妙な状況となっております。また4月からは消費税率が8%になり、自動車の駆け込み需要が少しながら動いているということもあり、今後の自動車業界の動きには注目していきたいところです。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」などを訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・消費税増税により、6月以降の需要は減少の見込み。（製造業）
- ・消費税の引き上げによる駆け込みの販売台数の増加が見込まれるが、その反動で、4月1日以降の販売台数減が予想される。但し、自動車の取得税、重量税等の減税がありますので、業界で説明していく必要があります。（自動車販売業）
- ・消費税はつらいです。（鉄工業）

経営上の問題点（機械・工業部会）



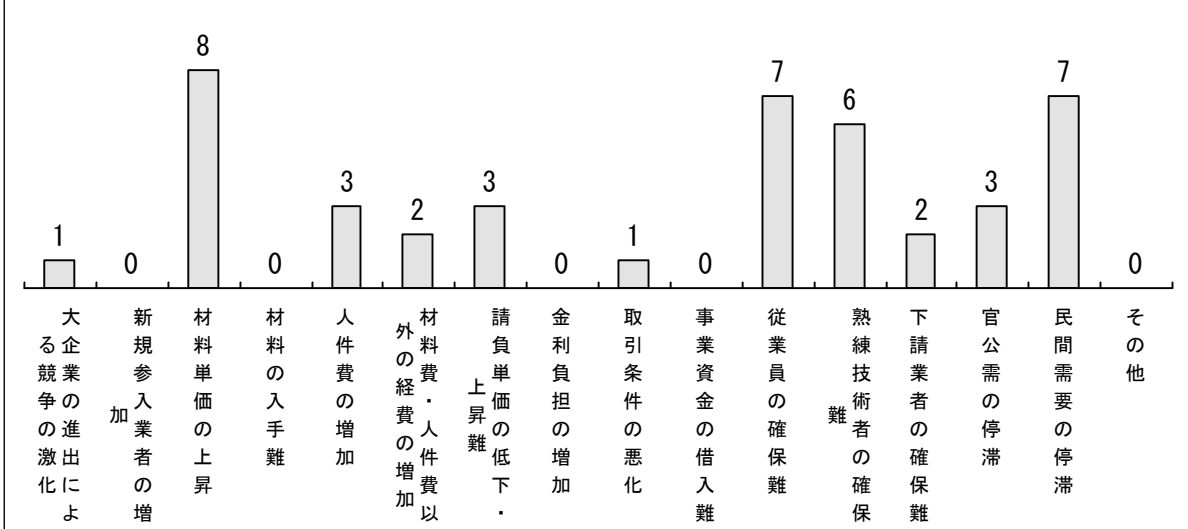
【建設業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）**33.3**（前年DI値△28.6、来期見通し△13.3）]

業況判断DI値（前年同期比）は前年比61.9ポイント増の大幅改善をしています。夏場の工事期に入り、北見信金紋別支店の移転工事（1年間）や広域紋別病院の立替工事（2年間）、紋別ガリヤ地区に立てる予定の住友林業によるバイオマス発電所の建設（3年間）など人手が足りない中で仕事をこなしてきており順調な状況となっております。しかしながら次期見通しは、極端に仕事の少ない冬期を迎えることもあり、見通しとしてはやや悪化するだろうとの見方が強くなっています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」「従業員の確保難」などを訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・消費税が増税されると、手持資金に余裕ができるため、勘違いしないよう、中間納税の回数を増やして欲しい。（建設）

経営上の問題点（建設業部会）



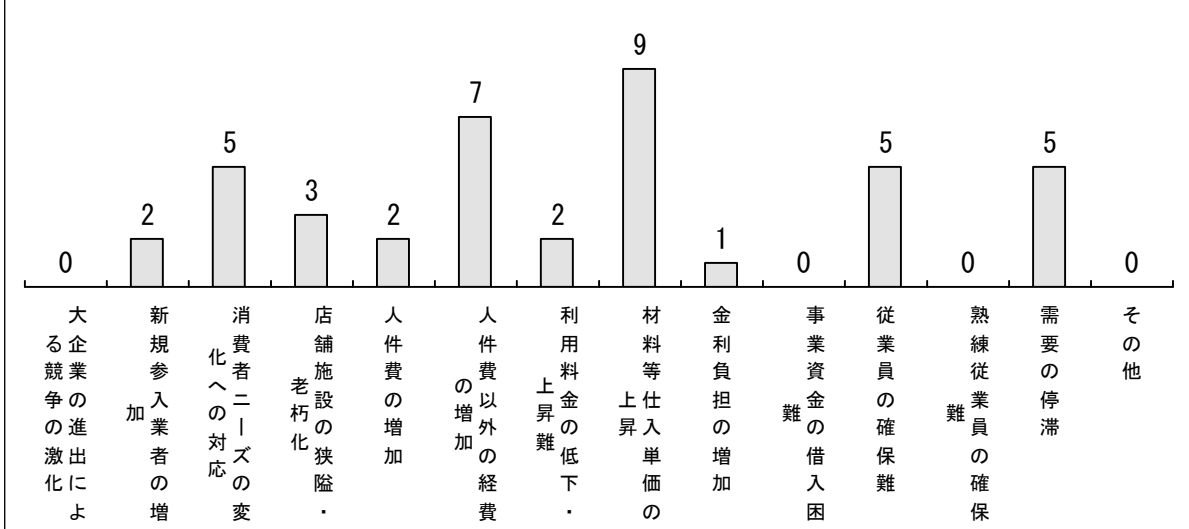
【観光・サービス業・諸業部会】 〔業況判断DI値（前年同期比）5.6（前年DI値△20.0、来期見通し△38.9）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも25.6ポイント増の大幅な改善はしているが、全体的に良いという状況ではなく、良い事業所もあれば悪い事業所もあるというバランスになっています。来期は悪化見通しの予想ですが、本格的な流水シーズン到来で観光客などの入り込み増加を期待していききたいところです。経営上の問題点としては、「材料等仕入単価の上昇」「人件費以外の経費の増加」などを心配する声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・消費税引き上げ後の消費の動向、また円安による原材料費のアップやそれらを価格に転嫁できるかどうか分からない。（飲食業）
- ・消費税の対応を今後どうするか。（飲食業）
- ・1月分からのプロパンガスの値上げ、石油製品全般の高値、輸入エビの高騰（1.5～2倍）など、経費、材料原価の上昇が続き、利益の減少が今後も続きそう。（飲食業）
- ・若年層に敬遠され、高齢化、イメージが悪い（ダサイ感じ）のでこのままでは将来がない。（理容業）
- ・増税前対策が必要。（サービス業）

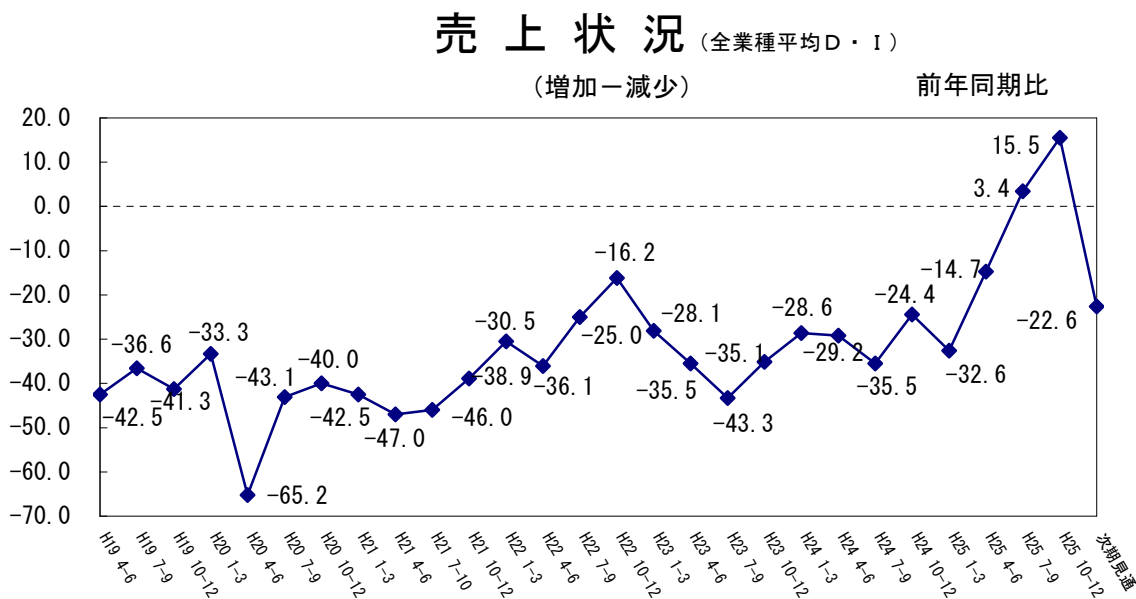
経営上の問題点（観光・サービス業・諸業部会）



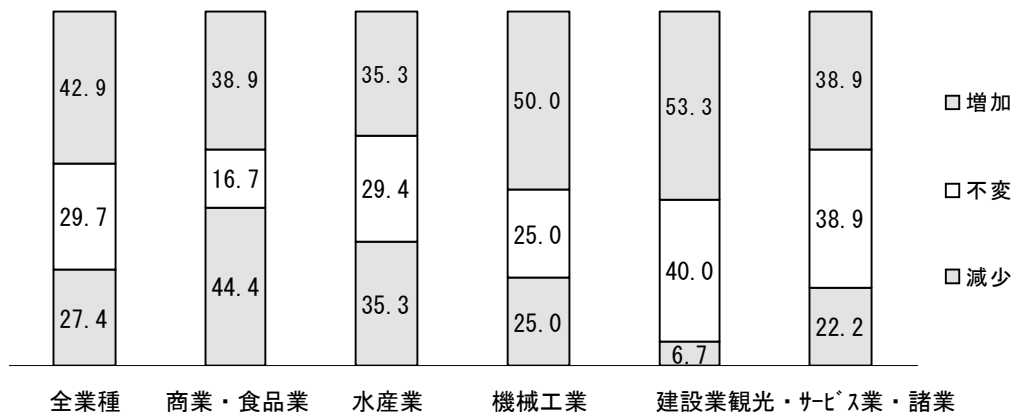
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値 15.5〔前回調査時（平成 25 年 7～9 月期△14.7）より 30.2 ポイント改善〕
機械工業、建設業、観光・サービス業・諸業が大きく改善。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年△37.5→△5.6〕、水産業〔前年△26.7→0.0〕
機械工業〔前年△14.3→25.0〕、建設業〔前年△28.6→46.7〕
観光・サービス業・諸業〔前年△15.0→16.7〕

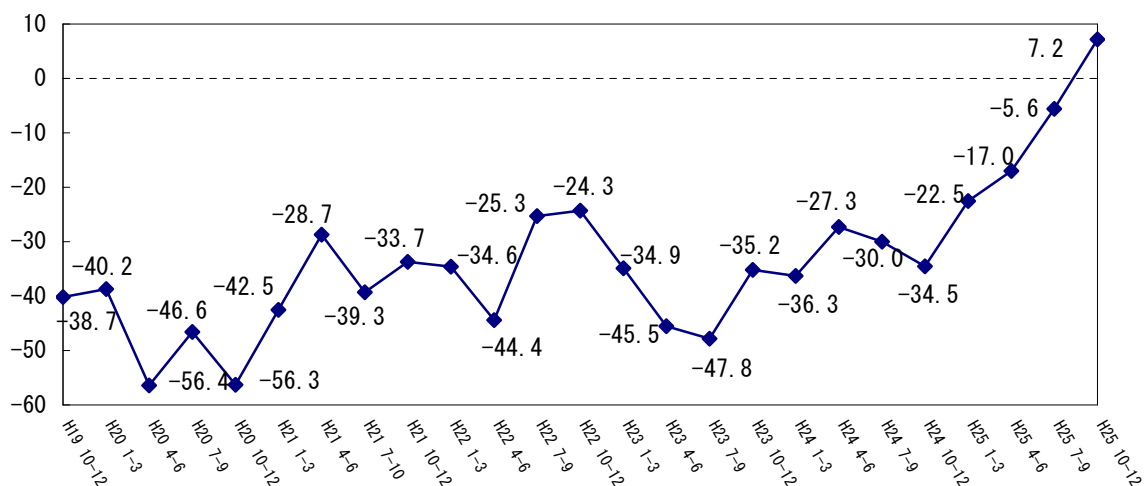
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の採算水準）

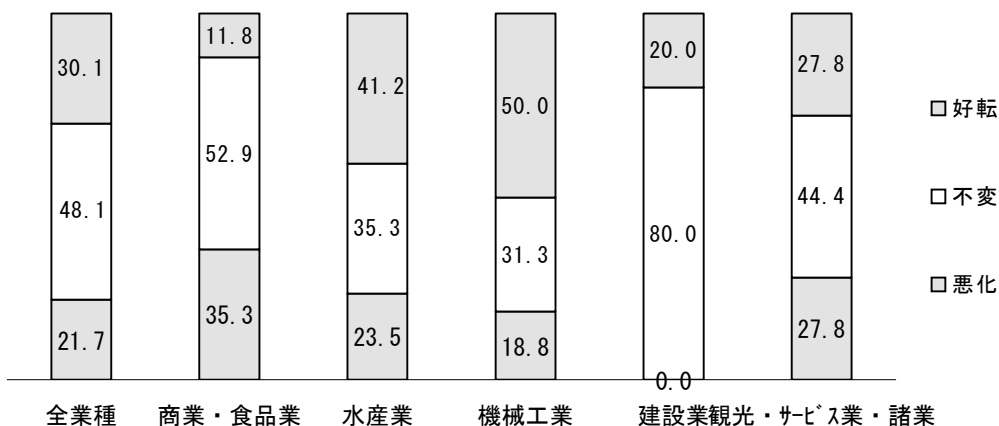
採算推移 （全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の採算（前年同期比）



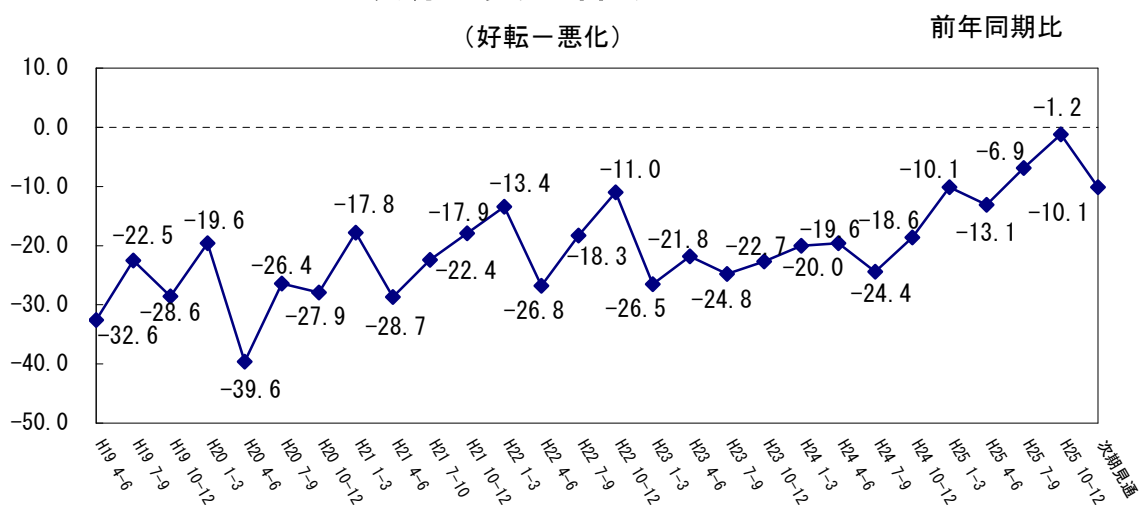
全業種平均で DI 値 **7.2**〔前回調査時（平成 25 年 7～9 月期△17.0）より 24.2 ポイント改善〕
水産業、機械工業、建設業が大きく改善。

〔部会別 DI 値〕
 商業・食品業〔前年△52.9→△27.8〕、水産業〔前年△33.3→17.6〕
 機械工業〔前年△28.6→31.3〕、建設業〔前年△38.1→20.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年△20.0→0.0〕

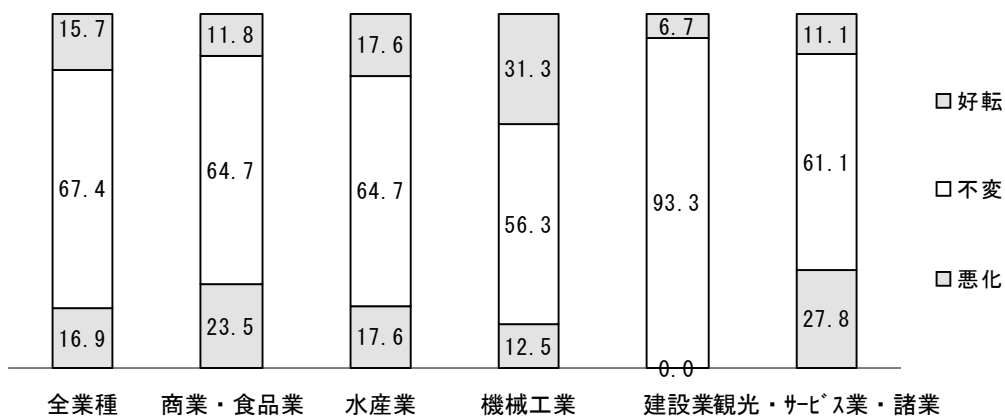
(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り （全業種平均 D・I）



今期の資金繰り（前年同期比）



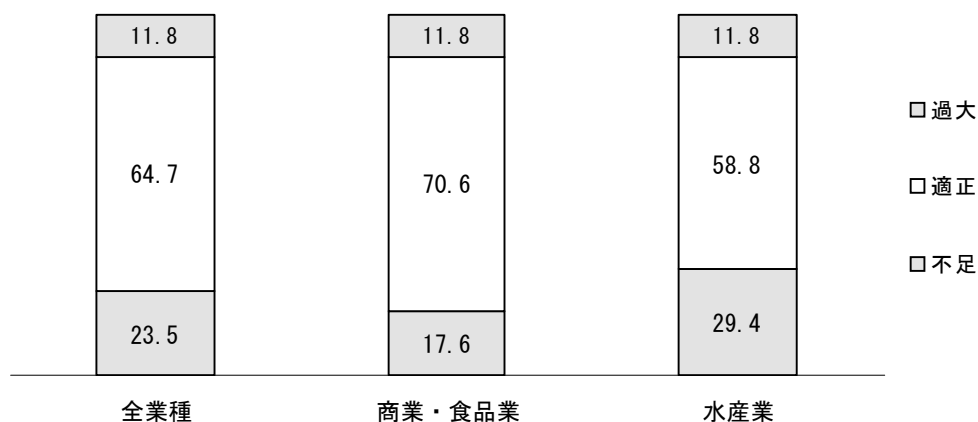
全業種平均で DI 値 $\Delta 2.4$ 〔前回調査時（平成 25 年 7～9 月期 $\Delta 22.7$ ）より 20.3 ポイント改善〕
水産業、建設業が改善。

[部会別 DI 値] 商業・食品業〔前年 $\Delta 9.5 \rightarrow \Delta 16.7$ 〕、水産業〔前年 $\Delta 28.6 \rightarrow 0.0$ 〕
機械工業〔前年 $\Delta 22.2 \rightarrow 18.8$ 〕、建設業〔前年 $\Delta 10.0 \rightarrow 6.7$ 〕
観光・サービス業・諸業〔前年 $\Delta 53.3 \rightarrow \Delta 16.7$ 〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



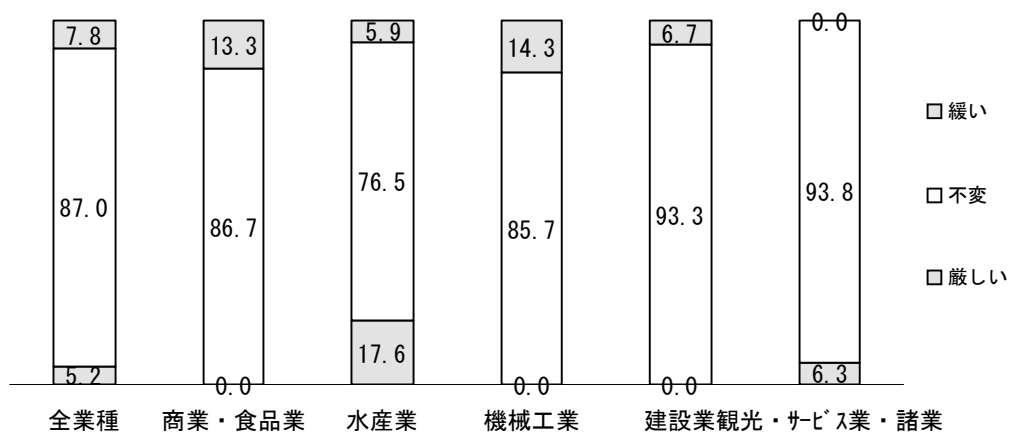
全業種平均で DI 値△14.3〔前回調査時（平成 25 年 7～9 月期△3.2）より 11.1 ポイント在庫増加〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年 0.0→△11.1〕、水産業〔前年△20.0→△17.6〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

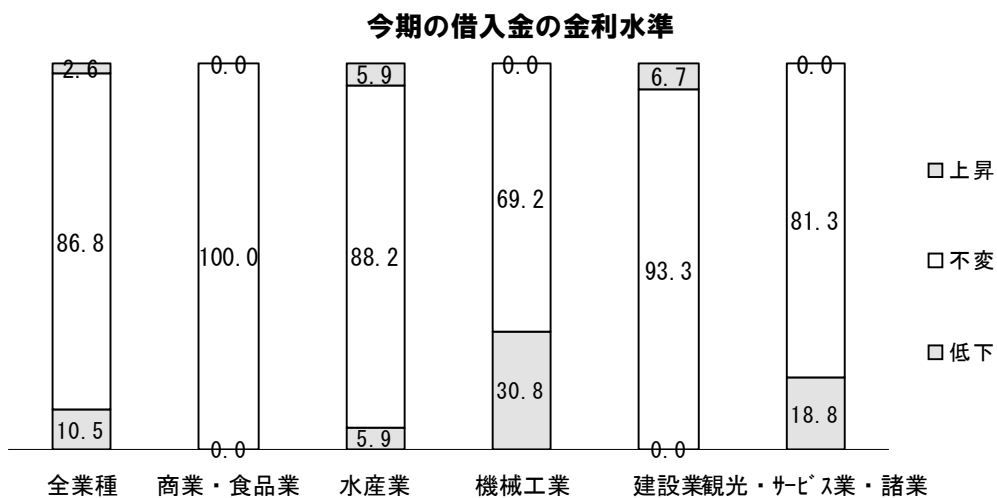
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で 2.6 ポイント。商業食品業 12.5 水産業△11.8 機械工業 14.3 建設業 6.7 観光・サービス業△6.3

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 24 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

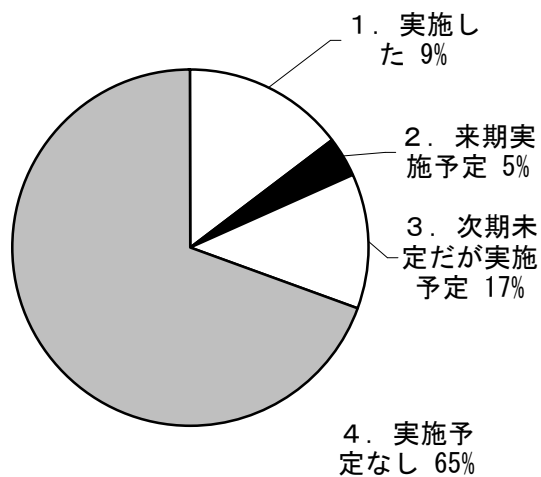


全業種平均で $\Delta 7.8$ 。商業食品業 0.0 水産業 0.0 機械工業 $\Delta 30.8$ 建設業 6.7 観光・サービス業・諸業 $\Delta 18.8$

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

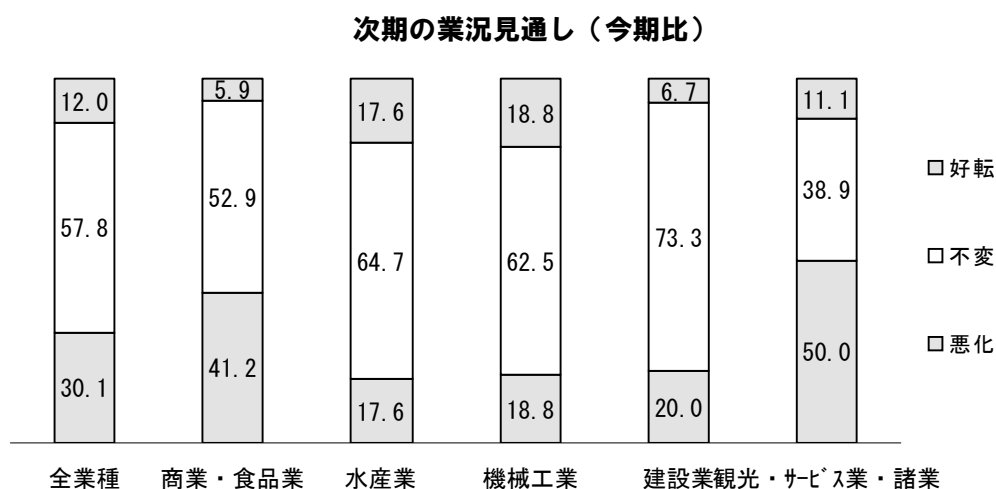
設備投資の実施状況



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

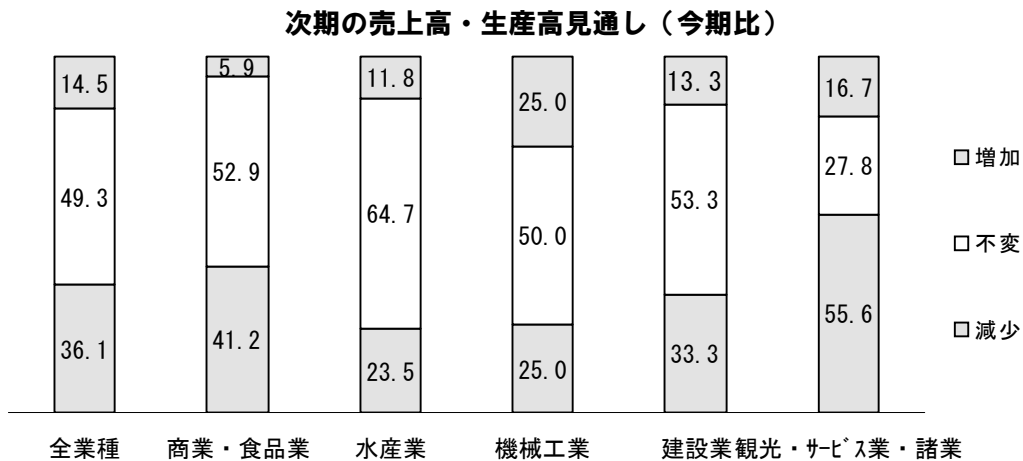
【今期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値 $\Delta 19.1$ [今期の業況（前年同期比 16.8）より 35.9 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

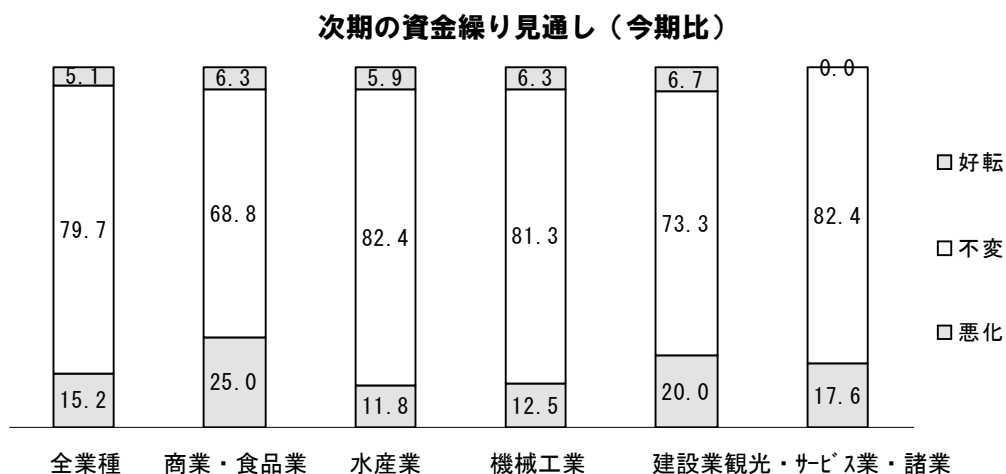
【今期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値 $\Delta 22.6$ [今期の売上高・生産高（前年同期比 16.9）より 39.5 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 $\Delta 10.0$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 1.2$ ）より 8.8 ポイント悪化の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	15.5	$\Delta 16.7$	23.5	37.5	33.3	5.6
	来期見通し	$\Delta 19.1$	$\Delta 38.9$	0.0	0.0	$\Delta 13.3$	$\Delta 38.9$
売上 D・I	今期実績	15.5	$\Delta 5.6$	0.0	25.0	46.7	16.7
	来期見通し	$\Delta 22.6$	$\Delta 38.9$	$\Delta 11.8$	0.0	$\Delta 20.0$	$\Delta 38.9$
在庫 D・I	今期実績	$\Delta 14.3$	$\Delta 11.1$	$\Delta 17.6$	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	7.2	$\Delta 27.8$	17.6	31.3	20.0	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 2.4$	$\Delta 16.7$	0.0	18.8	6.7	$\Delta 16.7$
	来期見通し	$\Delta 10.0$	$\Delta 17.6$	$\Delta 5.9$	$\Delta 6.3$	$\Delta 13.3$	$\Delta 17.6$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	2.6	12.5	$\Delta 11.8$	14.3	6.7	$\Delta 6.3$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	$\Delta 7.8$	0.0	0.0	$\Delta 30.8$	6.7	$\Delta 18.8$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。